

# 平成 28 年度静岡県定置漁業協会総会

## クロマグロ資源管理・震災への対応を議論

平成 28 年 5 月 20 日(金)に伊東市観光会館の会議室で、平成 28 年度一般社団法人静岡県定置漁業協会通常総会が開かれました。冒頭に日吉会長から「くろまぐろ型 TAC が 7 月より試験導入されることを受け、定置漁業に関しては、全国を一つのブロックとして“共同管理”する方針で話が進んでいる。静岡については年間 3 トン未満しか獲っていないが、他地域で漁獲枠を超えた場合、静岡も操業停止となる可能性が高い。伊豆半島東岸における定置漁業は単なる漁業に留まらず、観光業、商業にも影響を与えるため、くろまぐろ型 TAC の共同管理については十分に対応策を取る必要がある。」と、昨今取組が進められているクロマグロ管理の定置漁業に与える影響について御意見を述べられました。

議事進行の後、記念講演として、まず網代漁業株式会社の泉澤宏氏より、「東日本大震災における定置漁業の対応」と題し、災害対応は人命確保が最優先。資産(建物、漁具)を守ることは不可能だが、替網は高台に保管する、重要なデータはバックアップを取っておく、船には保険をかけておく、といった対策をすべき、といったお話をしていただきました。続いて日本鯨類研究所の西脇茂利氏より、「沿岸漁業のホープ! 定置網と鯨の関係」と題し、定置網での混獲の状況や、食用利用する際の処理のポイント等についてお話いただきました。また、当场より、約 30 年間の伊豆東岸定置網における漁獲量と魚種組成の推移、伊豆東岸定置網におけるスルメイカの漁獲動向、直近の定置網漁獲物の販路拡大の取り組みについてお話させていただき、また、水産資源課より、くろまぐろ型 TAC についての概要説明と、今後の対応方針についての説明もなされました。

定置漁業は伊豆半島東岸の産業を支える基幹漁業です。くろまぐろ型 TAC や震災など、定置漁業に影響を及ぼす課題は多くありますが、定置漁業者、漁協、行政、研究所が力を合わせ、課題解決に向け取組んでいきたいと思っております。



(写真) 総会の様子

(鈴木勇己)